

社団法人日本透析医会通常総会資料

社団法人 日本透析医会通常総会

日 時 平成4年5月17日(日)午後3時
場 所 ホテルニュー神田 3階301号室

1. 開 会
2. 会長挨拶
3. 議長選出
4. 議事録署名人選任
5. 議 事
 - 第1号議案 平成3年度事業報告及び収支決算の承認を求める件
 - 第2号議案 平成4年度事業計画及び予算の承認を求める件
 - 第3号議案 その他
6. 閉 会

第1号議案 平成3年度 事業報告

I. 会 議

1. 総 会

平成3年度 通常総会

平成3.5.19

- 第1号議案 平成2年度事業報告及び収支決算の承認を求める件
- 第2号議案 平成3年度事業計画及び予算の承認を求める件
- 第3号議案 新役員承認を求める件
- 第4号議案 その他

2. 理事会

平成3.5.19 協議事項

平成3年度通常総会提出議案について

- 第1号議案 平成2年度事業報告及び収支決算の承認を求める件
- 第2号議案 平成3年度事業計画及び予算の承認を求める件
- 第3号議案 新役員承認を求める件
- 第4号議案 委員会の設置及び委員長等の承認を求める件
- 第5号議案 その他

報告事項

- (1) 災害時救急透析医療システムの現状について
- (2) 医療廃棄物処理ガイドラインに対する医会の対応について
- (3) 日本透析医会のシンボルマークについて

3. 常務理事会

平成3.4.13 協議事項

臨時

- (1) 平成3年度事業計画及び予算等について
- (2) 新役員について
- (3) 委員会の設置及び委員長等について
- (4) その他

平成3.6.12 協議事項

臨時

- (1) 新委員会委員長の人選について
- (2) 医工業研究会との協同事業について
- (3) 事務の簡素化について（領収書の発行）

報告事項

- (1) 全腎協との協同事業について
- (2) 職員の給与ベース改訂について
- (3) 次回の常務理事会の開催について
- (4) 新役員（矢野享先生）辞退の申出について

平成3. 7. 14 協議事項

- (1) 今年度のシンポジウム開催について
- (2) 「医療用具品目指定調査検討会」の出席依頼について（厚生省薬務局安全課指導係）
- (3) I N F A国際スクール1992の開催について
- (4) 腎不全患者のアンケート調査について
- (5) 入会申込書（推薦会員なし）について
- (6) 災害時システムについて（東京都衛生局医療対策課）
- (7) シュレッダーの購入について

報告事項

- (1) 人工腎臓装置の耐用年数の短縮（要望書）について
- (2) 第3回医工学治療研修セミナーの開催について
- (3) 年会費の納入状況について
- (4) 会員の入・退会について
- (5) 原稿募集について
- (6) 愛知県支部の事務局設置依頼について
- (7) 厚生科学研究費補助金交付申請について
- (8) 緊急血液浄化用ブラッドアクセスカテーターについて
- (9) 役員登記の完了について

平成3. 9. 21 協議事項

- (1) 「日本腎移植者協議会」（仮称）の設立に伴う授助依頼について
- (2) 「国民の健康会議」の開催案内につい

て

- (3) 理事の後任について
- (4) 会員名簿の作成等について
- (5) 医会雑誌に掲載（太田裕祥先生の逝去の件、IDカード作成の中間報告の件）について
- (6) ファクシミリの購入について
- (7) その他

報告事項

- (1) 太田裕祥先生の逝去について（稲生会長、鈴木理事、山川理事他弔問、生花一封、弔電発信）
- (2) 日本透析療法学会（統計調査小委員会）との合同委員会について
- (3) 第3回医工学治療研修セミナーへの助成について
- (4) 年会費の納入状況について
- (5) 会員の入・退会者について
- (6) 第6回腎移植推進国民大会の開催（長崎市）について
- (7) 委員会報告
 - (1) 災害時救急透析医療委員会
 - (2) 情報管理委員会
 - (3) 腎移植普及推進委員会
 - (4) 研修委員会
 - (5) 研修委員会（アクセス・ワーキング・グループ）

平成3.11. 16 協議事項

- (1) 「診療報酬改定」に関する要望書について
- (2) I N F A国際スクール1992の開催について
- (3) 「第4回シンポジウム」の開催について

報告事項

- (1) 「腎不全患者の実態に関する調査研究」の委託契約について〔財統計研究会〕

- (2) IDカードの送付について
- (3) 「第6回腎移植推進国民大会」協力のお礼について
- (4) 「日本腎移植者協議会」の設立に対する助成について
- (5) 年会費の納入状況について
- (6) 会員の入・退会について
- (7) その他

平成4. 1. 18 協議事項

- (1) 災害時救急透析医療システム登録事業の登録の協力依頼について
- (2) 「第4回アクセス研究会」の開催について
- (3) 第6回腎移植推進月間の後援に伴う経費の負担について
今年度 6,755千円
昨年度 6,433千円（参考）

報告事項

- (1) 診療報酬改定の要望書提出について
- (2) 感染性廃棄物の範囲について
- (3) INF A国際スクール1992の寄付辞退について
- (4) 第4回医工学治療研修セミナー助成について
- (5) 年会費の納入状況について
- (6) 会員の入・退会について

平成4. 3. 21 協議事項

- (1) 平成4年度予算（案）について
- (2) 医療費改定について
- (3) 創立5周年記念シンポジウムの開催について
- (4) 医会事務室の契約更新に伴う賃料・共益費の改定について
- (5) 職員の給与ベース改訂について
- (6) 国際シンポジウムの助成について
- (7) その他

報告事項

- (1) 第4回アクセス研究会の開催について
- (2) 年会費納入状況について
- (3) 会員の入・退会者について
- (4) その他

II. 委員会報告

1. 適正透析療法委員会

(1) 第一委員会

透析導入者審査委員会設置支部（新潟・栃木・愛知）に助成した。

(3) 第三委員会

（平成3年度2回開催）

各支部から適正な透析医療の遂行に関する諸問題が提出、討議されたが、保険診療に関する問題は平成4年度の診療報酬改正への要望としてまとめられた。

次いで、新しく改正された診療報酬制度への適切な対応が討議され、各支部会員への周知を計るよう議決された。

(4) 第四委員会

（平成3年度4回開催）

- ① 診療報酬改正について協議した。
- ② 診療報酬改正に対する医会としての対応について協議し、厚生省に「要望書」を提出することを決定した。
「要望書」は会務報告どおり関係者に提出した。

(5) 第五委員会

（平成3年11月開催）

平成3年3月20日：感染性医療廃棄物処理に関する要望書を提出後、担当課長の変更があり、廃棄物処理改正法案の国会通

過が、他の重要案件のため遅れに遅れるという状況になった。

平成3年10月2日：廃棄物処理法改正が国会を通過し、感染性廃棄物は、毒性・爆発発生と並んで特別管理産業廃棄物となった。

平成3年10月29日：医療廃棄物対策委員会より、山川委員長、奥田・山崎両委員が厚生省担当部署へ陳情に出頭。

平成3年11月16日：第5委員会ワーキンググループ（山川・山崎・奥田・市丸等各委員）による検討会がもたれた。

平成3年12月：厚生省内に医療廃棄物ガイドライン新検討委員会が発足。

平成3年12月10日：ワーキンググループの素案を作成。

平成4年1月31日：日本医師会病院委員会に新検討委員会案が提示された。

以上、本年7月2日までに、新しい医療廃棄物ガイドラインが、政令又は通達として正式に出されることになる。

2. 災害時救急透析医療委員会

（平成3年度3回開催）

継続事業である「災害時救急透析医療システム」の確立に向けて、さらに具体的な作業を進めた。

- (1) 登録状況（平成3年12月現在）
施設登録 1,196件、個人登録 31,849人
- (2) 透析登録証の作成・配布（平成3年9月）
- (3) 更新登録開始（平成4年2月）
この際に、冊子「災害時救急透析医療システム・登録データについて」を配布・報告する。
- (4) 日本透析療法学会統計調査小委員会と合同委員会開催
（2回・平成3年9月、10月）
学会及び医会それぞれの統計調査の整合

性について意見交換する。

3. 合併症対策委員会

（平成4年1月開催）

災害時救急医療システムに登録している患者の合併症に関するデータを利用して、合併症について各委員より透析医会雑誌に寄稿。

平成4年度は合併症シリーズとして「感染症」をとりあげる。

4. 腎移植普及推進委員会

（平成3年7月開催）

- (1) 平成3年度腎移植推進月間及び第6回腎移植推進国民大会に助成した。
- (2) 同推進月間のポスター及び小冊子「献腎」、パンフレットを会員に配布した。
- (3) 第4回日本透析医会「シンポジウム」を開催

テーマ 「腎移植・透析スタッフと移植スタッフの接点」

日時 平成3年11月17日(日)午後1時～4時

場所 津田ホール

司会 太田和夫、山川眞

シンポジスト 東京女子医科大学 太田和夫ほか7名

参加者は約200名であり、現実問題を中心に活発な討論が行われた。結論として透析医、移植医はさらに密接な関係を保ち、共同して腎不全患者の医療に取り組むことが確認された。

6. 研修委員会

(平成3年度4回開催)

- (1) 医工学治療研究会と共同主催し、研修セミナーを開催した。

会場	期間	出席者
①北大学術交流会館(札幌市)	平成3年9月8日	約400名
②古賀病院講堂(久留米市)	平成3年11月23日・24日	約400名

- (2) 研修用出版物を作成した。

「ブラッドアクセストラブル」 146頁
 企画・監修 「日本透析医会研修委員会」
 編集 阿岸鉄三・天野泉・今川章夫・今忠正
 発行 金原出版株式会社

- (3) 第4回アクセス研究会を開催した。

日時 平成4年3月1日(日)
 午前9時～午後2時30分
 場所 津田ホール
 一般演題 19題
 ワークショップ：「Blood accessと感染」(岡崎葵クリニック 西秀樹ほか5名)
 司会 天野泉・大平整爾
 参加人員 300名

- (4) 下記支部が開催した講習会・講演会に助成した。

支部名	会場	開催年月日
北海道	第一製薬札幌支店	平成3年11月2日
青森県	十和田市民文化センター	平成3年4月14日
宮城県	良陵会館	平成3年12月8日
富山県	富山市民会館	平成4年3月15日
大阪府	大阪市立大学文化交流センター	平成3年6月22日
愛知県	愛知県民共済会館	平成3年8月31日

支部名	会場	開催年月日
兵庫県	兵庫県教育会館	平成3年12月8日
大分県	大分第一ホテル	平成4年2月1日
鹿児島県	城山観光ホテル	平成3年6月1日

7. 広報委員会

第3回アクセス研究会抄録などによるVol. 7 No.1 (13号)、各地区透析医会による透析状況報告などによるVol. 7 No.2 (14号)及び第4回シンポジウム「腎移植・透析スタッフと移植スタッフの接点」などによるVol. 7 No.3 (15号)を発刊し、全会員及び関係機関に送付した。

8. 情報管理委員会

(平成3年度5回開催)

医会が行う各種のアンケート調査結果の管理運用について委員会を行い次のとおり検討した。

- (1) 日本透析医会に於けるプライバシー保護のシステムについて
- (2) 透析データバンクシステムの整備について
- (3) 新データバンクシステムの基本設計について
- (4) データ使用の事前承認制度と申請と承認の具体的な手続き・方法について

III. 会 務 報 告

3. 4. 10 年会費の自動振替について会員あて
発送。
3. 4. 13 平成2年度会計監査実施。
3. 4. 16 透析登録証の資料を提示。
3. 4. 26 職員採用予定者と面接。
3. 5. 8 全腎協大会に会長名で祝電発信。
3. 5. 10 透析登録証の原案持参（望月氏）。
3. 5. 21 厚生省保健医療局疾病対策課に通常
総会等報告。
3. 5. 25 全腎協20周年祝賀会に会長出席。
3. 5. 31 事務局長・増田彰久 退職。
3. 6. 1 事務局長・松添久徳 着任。
3. 6. 12 医工学研究会との協同事業への助成
を決定。
3. 6. 28 厚生省健康政策局総務課へ人工腎臓
装置の耐用年数の短縮について要望
書を提出。
3. 7. 3 医会「変更登記申請書」提出。
3. 7. 8 上記「登記簿謄本」受領。
3. 7. 15 厚生大臣あて平成2年度事業報告及
び収支決算並びに平成3年度事業計
画及び予算等提出。
3. 7. 23 厚生省保健医療局疾病対策課・杉原
課長補佐に「日本透析医会における
コンピューターシステムの導入につ
いて」の報告（鈴木理事他2名）
3. 8. 7 腎不全対策推進功労者厚生大臣感謝
状贈呈候補者の推薦について、厚生
省保健医療局疾病対策課長へ報告。
3. 8. 7 厚生大臣あて「特定公益増進法人」
であることの証明申請書提出。
3. 8. 12 本会副会長・太田裕祥先生逝去。
3. 8. 13 稲生会長、鈴木理事、山川理事他弔
問。
(医会名、理事名で供花、弔電発信)
3. 8. 22 平成3年度腎移植推進月間及び第6
回腎移植推進国民大会後援並びに助
成について決定。
3. 8. 22 理事の「変更登記申請書」提出。
3. 8. 23 厚生大臣から「特定公益増進法人」
であることの証明書受領。
3. 8. 26 理事変更の「登記簿謄本」受領。
3. 8. 26 厚生大臣あて「理事の異動」につ
いて報告。
3. 9. 20 透析登録証発送の案内。
- 3.10. 3 (財)統計研究会の「腎不全患者の実態
に関する調査研究」との委託契約を
締結。
- 3.10. 14 「日本腎移植者協議会」の設立に対
し助成。
- 3.10. 15 厚生省保健医療局疾病対策課に「平
成3年度公益法人概況調査及び台帳
の作成について」提出。
- 3.10. 18 第7回疾病対策懇話会開催 鈴木理
事、松添出席。
- 3.11. 17 第4回シンポジウム「腎移植・透析
スタッフと移植スタッフの接点」開
催（東京都）。
- 3.12. 16 厚生省保健医療局疾病対策課へ「法
人役員等名簿」提出。
- 3.12. 17 日本医師会（羽田会長、吉田常務理
事）及び厚生省（黒木保険局長、小
野保険局医療課長）に医療費改正に
ついての「要望書」提出。
- 3.12. 20 厚生省保健医療局疾病対策課へ災害
時救急透析医療システム登録事業の
登録の協力について依頼。
4. 1. 14 第4回医工学治療研修セミナーへ助
成。
4. 2. 25 各支部長あて「改正点数表の解釈」
について発送。
4. 2. 27 厚生省保健医療局疾病対策課へ「保
健医療局許可法人研修会の開催につ
いて」の出席者提出。

- 4. 3. 19 上記研修会開催。平沢副会長、松添出席。
- 4. 3. 21 医会創立5周年記念シンポジウムの開催を決定。
- 4. 3. 21 国際シンポジウムへの助成を決定。
- 4. 3. 30 医療費改正に伴い、厚生省保険局医療課・小田企画官、松本課長補佐との交渉の結果について各支部長あて報告。

保険局長
黒木 武弘 殿
要 望 書

平成3年12月17日
社団法人 日本透析医学会
会長 稲生 綱政

腎不全対策は、予防、適正透析療法、腎移植が一体で実施されなければならない、そのいずれが損なわれても影響は甚大であると考えられます。

このため、本会では、災害時の救急透析とそのために必要なデータの集積に当面最大の投資を行っている一方、適正透析療法委員会で適正透析導入のガイドラインや安定期維持透析患者の保険診療マニュアルを作成し、その積極的な活用を促進しているとともに、適正透析療法普及推進委員会において維持透析療法の適正化を図っております。さらに腎移植普及推進委員会は移植の促進に向け努力を傾注しております。

以上の認識と実情について、深い理解をお願いするとともに、以下の事項に関して所要の改正を要望するものであります。

1.人工腎臓処置料(手技料)の引き上げについて

透析医療の特性は、規模の大小を問わずチーム医療そのものであります。人工腎臓の処置点数は1回につき4時間未満の場合1250点、4時間以上の場合1700点に定められて以来5年を経過しています。その間、医師を除く医療従事者の人件費は24.32%(全国病院労務管理学会による)の上昇をみ、医療従事者の待遇改善、すなわち、週休2日制や年間1800時間労働を迫られ、加えて臨床工学技士の資格認定・感染性医療廃棄物の法制化・水質汚濁防止法および同法施行令の一部改正に伴う排水処理規定の強化・賃借料の高騰等による所要経費の大幅上昇に直面し、透析医療はその継続に困難を来しつつある情勢となっております。

よって、本会は、今回の診療報酬改定にあたり、日本医師会を始め、各病院団体が要求している人件費上昇に対応できる診療報酬の改定に

全面的に賛成するものであり、人工腎臓の現行処置点数(手技料)の引き上げを要望するものであります。

2.透析導入時加算の引き上げについて

透析医療は、センター病院とサテライト診療所で機能を分担しております。そして透析の導入は、主にセンター病院において行われていますが、導入患者の高齢化(70歳以上の患者が全体の23.84%)や疾病構造の変化(糖尿病性腎症:26.2%、ちなみに平均年齢60.2歳)といった要因が、病院の経営を一層苦しくしている現況です。また、現行の導入時加算300点は、昭和61年度から据え置かれています。例えば、ブラッド・アクセスを有しない患者の場合には、代替処置としてダブル・ルーメン・カテーテルを用いて緊急透析治療を行います。同カテーテルの購入には30,000円を要するため導入時加算と透析処置料(1250点)を加えても、導入時の2回の透析治療は、無償で行われているという矛盾を余儀なくされています。センター病院の経営危機は、透析医療の危機に連動するものであり、透析導入時加算の緊急是正と、さらに、急性腎不全患者の透析治療にも導入時加算を拡大適用されるよう要望いたします。

3.重症透析管理料の新設について

透析医療の進歩の結果、透析患者の延命効果も顕著で平均年齢は年々上昇しています。これらの事実は、合併症保有患者の増加をも意味し、恒常的に行われる透析治療の現場では、70歳以上の透析患者は14.38%を占め、ADLの著しく低下した患者や精神障害者が透析患者になる場合も少なくなく医療密度の濃い管理が要求されています。また、長期生存者のなかには合併症

のため入退院を反復せざるをえない患者も少なくなく、一方それらの患者を収容する施設での入院時医学管理料は医療密度に反比例してゆく

現実があります。これらの矛盾を解決するために、病院、診療所を問わず透析管理料の新設を要望いたします。

以 上

平成3年度収支決算書

1. 収支計算書(平成3年4月1日から平成4年3月31日まで)

(単位:円)

科 目	平成3年(案)	決 算 額	差 異	備 考
I 収入の部				
1. 会費収入	64,000,000	67,844,000	3,844,000	
2. 入会金収入	4,200,000	3,600,000	△ 600,000	
3. 受講料収入	10,000,000	0		
4. 寄付金収入				
寄付金		700,000	700,000	
助成協賛金等	60,000,000	79,085,500	19,085,500	
寄付金収入合計	60,000,000	79,785,500	19,780,500	
5. 受取利息収入	25,000,000	46,234,757	21,234,757	
6. 雑収入		342,906	342,906	
当期収入合計(A)	163,200,000	197,807,163	34,607,163	
前期繰越収入差額	107,365,564	107,365,564	0	
収入合計(B)	270,565,564	305,172,727	34,607,163	
II 支出の部				
1. 事業費				
透析医療適正化事業費	10,160,000	3,030,725		
地域透析医療システム事業費	79,800,000	41,880,591		
腎移植普及推進事業費	8,600,000	9,503,577		
腎不全予防医学調査研究費	5,200,000	3,931,920		
研修等事業費	20,000,000	10,507,209		
広報活動費	14,000,000	2,977,529		
その他の事業	61,500,000	78,146,360		
事業費合計	199,260,000	149,977,911	△ 49,282,089	
2. 管理費				
人件費	19,000,000	17,420,636		
家賃	5,600,000	5,587,428		
その他経費	13,840,000	11,524,783		
管理費合計	38,440,000	34,532,847	△ 3,907,153	
3. 固定資産取得支出				
災害時システム設備支出		10,706,335		
什器備品支出		399,949		
電話加入権支出		74,984		
固定資産取得支出合計		11,181,268		
4. 子備費	6,000,000	0		
5. 基本財産組入額	0	0		
当期支出合計(C)	243,700,000	195,692,026	△ 48,007,974	
当期収支差額(A)-(C)	△ 80,500,000	2,115,137	△ 82,615,137	
次期繰越収支差額(B)-(C)	26,865,564	109,480,701	82,615,137	

2. 正味財産増減計算書(平成3年4月1日から平成4年3月31日まで) (単位:円)

科 目	金 額		
I 増加の部			
1. 資産増加額			
当期収支差額	2,115,137		
什器備品購入額	399,949		
災害時システム設備購入額	10,706,335		
電話加入権購入額	74,984		
基本財産組入額	0	13,296,405	
2. 負債減少額	0	0	
増加額合計			13,296,405
II 減少の部			
1. 資産減少額			
建物附属設備減価償却額	25,878		
什器備品減価償却額	2,001,137		
災害時システム設備減価償却額	18,853,345	20,880,360	
2. 負債増加額			
退職引当金繰入額	236,296	236,296	
減少額合計			21,116,656
当期正味財産減少額			7,820,251
前期繰越正味財産額			448,950,929
期末正味財産合計額			441,130,678

3. 貸借対照表(平成4年3月31日現在)

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	112,681,710		
仮払金	39,580		
流動資産合計		112,721,290	
2. 固定資産			
基本財産			
定期預金	270,000,000		
基本財産合計	270,000,000		
その他の固定資産			
建物附属設備	156,358		
什器備品	4,548,493		
災害時システム設備	50,895,827		
電話加入権	388,684		
保証金	6,350,000		
その他の固定資産合計	62,339,362		
固定資産合計		332,339,362	
資産合計			445,060,652
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	0		
預り金	3,240,589		
流動負債合計		3,240,589	
2. 固定負債			
退職給与引当金	689,385		
固定負債合計		689,385	
負債合計			3,929,974
III 正味財産の部			
正味財産			441,130,678
(うち基本金)			(270,000,000)
(うち当期正味財産減少額)			(7,820,251)
負債及び正味財産			445,060,652

4. 計算書類に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却について

有形固定資産については、定率法による減価償却を実施している。

(2) 資金の範囲について

資金の範囲には、現金・預金、及び仮払金、未払金、及び預かり金を含めている。

なお、当期末残高は、下記3に記載するとおりである。

2. 基本財産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
定期預金	270,000,000	0	0	270,000,000
合計(基本金)	270,000,000	0	0	270,000,000

3. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである

(単位：円)

科 目	当期末残高
現金預金	112,681,710
仮払金	39,580
合計	112,721,290
預り金	3,240,589
次期繰越収支差額	109,480,701

4. 有形固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価格	減価償却累計額	当期末残高
建物附属設備	322,907	166,549	156,358
什器備品	16,534,170	11,985,677	4,548,493
災害時システム	85,846,015	34,950,188	50,895,827
合計	102,703,092	47,102,414	55,600,678

5. 財産目録（平成4年3月31日現在）

（単位：円）No.1

科 目	金 額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金		
現金 現金手許有高	30,285	
普通預金 三菱銀行神田支店	5,301,066	
住友銀行神田支店	106,707	
第一勧業銀行神田支店	27,405	
太神三井銀行神田支店	59,953	
協和埼玉銀行神田支店	4,081,915	
三菱銀行神田支店（人工臓器）	64,379	
郵便振替	10,000	
定期預金 三菱銀行神田支店	100,000,000	
協和埼玉銀行神田支店	3,000,000	
仮払金	39,580	
流動資産合計		112,721,290
2. 固定資産		
(1) 基本財産		
定期預金 三菱銀行神田支店	270,000,000	
(2) その他の固定資産		
建物付属設備		
間仕切工事	156,358	
什器備品		
会議用テーブル	89,920	
会議用椅子	293,706	
事務用椅子	49,318	
FAX及びソーター	30,961	
ワードプロセッサ	90,831	
パーソナルコンピューター	99,629	
ゼロックスコピー機	260,785	
IBM S38	897,544	
IBM ソフト	2,258,956	
NEC PC980	175,281	
明光MSシュレッター	301,562	
災害時システム設備		
建物付属設備		
電源増設工事	1,944,128	
日本ユニシス2200設備工事	3,662,097	
什器備品		
日本ユニシス2200/200SX	28,043,021	
日本ユニシス ソフト	16,859,138	
ゼロックスFAX	387,443	
電話加入権	388,684	
保証金 淡路建物ビル保証金	6,300,000	
警備保証金	50,000	
その他固定資産合計	62,339,362	
固定資産の合計		332,339,362
資産合計		445,060,652

(単位：円)No.2

科 目	金 額		
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金 その他未払金	21,789		
預り金 職員等に対する源泉所得住民税			
その他預り分	194,800		
翌年度会費預り分	24,000		
預託金	3,000,000		
流動負債合計		3,240,589	
2. 固定負債			
退職給与引当金	689,385		
固定負債合計		689,385	
負債合計			3,929,974
正味財産			441,130,678

管理費内訳

給料・賃金	15,491,795
法定福利費	1,350,561
通勤費	578,280
旅費交通費	491,140
会議費	42,940
交際接待費	809,941
福利厚生費	69,903
印刷製本費	633,628
通信費	1,256,648
消耗品費	1,066,039
委託費	3,663,320
報酬（要源泉）	666,666
水道光熱費	619,481
リースレンタル	5,587,428
諸会費	152,063
租税公課	3,000
テーブルライト	56,470
雑費	260,213
常任理事会費	711,914
総会・理事会費	1,021,417
合 計	34,532,847

第2号議案 平成4年度事業計画書(案)

事業計画の概要

1. 透析医療の適正化に関する調査・研究事業

- ① 適正な透析療法の検討に関する調査・研究

適正透析療法委員会

- * 透析療法の質的向上と普遍化を目的とする調査・研究

第一委員会

適正な導入時期に関する調査研究

第二委員会

適正な維持透析療法に関する調査研究

第三委員会

同上の療法の普及推進を行う

第四委員会

適正な透析医療経済に関する調査研究

第五委員会

医療廃棄物対策に関する調査研究

第六委員会

在宅治療の(CAPD・家庭透析等)の適応基準の調査・研究

2. 地域透析医療システムに関する調査・研究

- * 透析施設間の相互連携による地域透析医療システムを確立するための調査・研究

- ① 災害時に於ける救急透析医療システムの作成に関する調査・研究

災害時救急透析医療委員会

イ 施設登録・患者登録の調査、入力及び検証に関する事業

ロ コンピュータ化に伴う他委員会との整合性の検討

ハ ブロック別災害時救急透析医療システ

ムの構築

ニ 災害等のための患者透析登録証の発行

- ② 長期透析患者の合併症に対する調査研究

合併症対策委員会

イ 透析導入の初発原因(原疾患・病因等)に関する調査・研究

ロ 患者の高齢化に伴う収容施設の相互連携化に対する調査・研究

ハ 患者の長期生存に伴い発生する合併症及びその原因に対する調査・研究
(今年度は感染症疾患に対する治療指針の作成)

3. 腎移植普及推進に関する事業

腎移植普及推進委員会

- * 会員および患者に対しての協力・普及を目的とする。

イ 腎移植推進月間・腎バンク及び地方腎移植推進システムへの協力事業

ロ 会員に対する腎移植の啓蒙・教育事業
(脳死問題を含む講演会及び腎移植広報活動等)

ハ 患者に対する腎移植推進事業
(会員の日常業務として、地区患者を対象とする推進事業)

ニ 関係団体への協力事業(医療施設や遺族に対するドネーションの啓蒙)

ホ 腎移植コーディネーター問題の研究

4. 腎不全予防医学の調査・研究事業

腎不全予防医学調査研究委員会

- * 透析導入を予防し残腎機能を維持させるための事業

イ 透析導入前の慢性腎不全患者に対する保存的維持療法の調査・研究事業

- ロ 関係団体への協力事業

5. 研修等事業

研修委員会

- イ 臨床工学技士現任者講習会の開催
- ロ 腎不全臨床医療スタッフの研修会の開催
- ハ 研修用ビデオの制作及び出版事業
- ニ 関係学会・団体との研究協力
- ホ 国内講演会等の開催

6. 広報活動及び刊行物の発行に関する事業

広報委員会

- ① 機関誌等の発行
 - イ 雑誌 1,500部 (年4回発行)
 - ロ 名簿 1,200部
- ② シンポジウムの開催

7. その他の事業

情報管理委員会

- * 医会が行う各種のアンケート調査結果の管理運用

平成4年度予算(案)

〔収入の部〕

(単位:円)

区 分	平成3年度予算	平成4年度 予算(案)	増 減
1. 会費収入	64,000,000	68,000,000	4,000,000
2. 受取利息	25,000,000	13,000,000	△ 12,000,000
3. 入会金収入	4,200,000	2,000,000	△ 2,200,000
4. 前年度繰越金	107,365,564	109,000,000	1,634,436
5. 寄附金収入	60,000,000	40,000,000	△ 20,000,000
6. 受講料収入	10,000,000	0	△ 10,000,000
7. 雑収入			
計	270,565,564	232,000,000	△ 38,565,564

〔支出の部〕

区 分	平成3年度予算	平成4年度 予算(案)	増 減
1. 事業費	199,260,000	179,610,000	△ 19,650,000
2. 管理費	38,440,000	39,545,000	1,105,000
3. 予備費	6,000,000	6,000,000	0
4. 次年度繰越金	26,865,564	6,845,000	△ 20,020,564
5. 基本財産組入額	0	0	
計	270,565,564	232,000,000	△ 38,565,564

区 分	平成3年度予算	平成4年度 予算(案)	増 減
基本財産累計	270,000,000	270,000,000	0

支出の部内訳

区 分	平成3年度予算	平成4年度 予算(案)	増 減
I. 事業費(調査研究事業費)	199,260,000	179,610,000	△ 19,650,000
(1)透析医療の適正化	10,160,000	8,360,000	△ 1,800,000
(1) 第一委員会	(3,000,000)	(1,750,000)	△ (1,250,000)
(2) 第二委員会	(2,360,000)	(2,360,000)	(0)
(3) 第三委員会	(2,000,000)	(2,000,000)	(0)
(4) 第四委員会	(1,000,000)	(1,000,000)	(0)
(5) 第五委員会	(1,000,000)	(800,000)	△ (200,000)
(6) 第六委員会	(800,000)	(450,000)	△ (350,000)
(2)地域透析医療システム	79,800,000	92,300,000	12,500,000
(1) 災害時救急透析医療委員会	(74,000,000)	(86,500,000)	(12,500,000)
(2) 合併症対策委員会	(5,800,000)	(5,800,000)	(0)
(3)腎移植普及推進	8,600,000	7,800,000	△ 800,000
(4)腎不全予防医学の調査研究費	5,200,000	3,200,000	△ 2,000,000
(5)研修等事業費	20,000,000	10,000,000	△ 10,000,000
(6)広報活動費	14,000,000	11,000,000	△ 3,000,000
(7)その他の事業	61,500,000	46,950,000	△ 14,550,000
(1) 情報管理委員会	(1,000,000)	(1,200,000)	(200,000)
(2) 内規委員会	(500,000)	(250,000)	△ (250,000)
(3) 学会助成費	(60,000,000)	(40,000,000)	△ (20,000,000)
(4) 創立5周年記念シンポジウム費	(0)	(5,500,000)	(5,500,000)
II. 管理費	38,440,000	39,545,000	1,105,000
(1)人件費	19,000,000	20,000,000	1,000,000
(2)家賃	5,600,000	7,000,000	1,400,000
(3)その他の経費	13,840,000	12,545,000	△ 1,295,000
III. 予備費	6,000,000	6,000,000	0
IV. 次年度繰越金	26,865,564	6,845,000	△ 20,020,564
V. 基本財産組入額	0	0	0
計	270,565,564	232,000,000	38,565,564

役員名簿

役 職 名	氏 名	現 職
会 長 (関 東)	稲 生 綱 政	医療法人平和会 平和病院 名誉院長 医療法人大坪会 東和病院 院長
副 会 長 (中 部)	平 澤 由 平	社会福祉法人 信楽園病院 副院長
常 務 理 事 (関 東)	鈴 木 満	医療法人松園会 理事長
常 務 理 事 (関 東)	吉 田 豊 彦	医療法人誠仁会 理事長
営 務 理 事 (関 西)	山 川 眞	医療法人仁真会 理事長
理 事	太 田 和 夫	東京女子医科大学 教授
	翁 久次郎	財団法人厚生年金事業振興団 理事長
	小 出 桂 三	帝京大学医学部 教授
	杉 野 信 博	東京女子医科大学 教授
	前 田 貞 亮	前田記念腎研究所
	三 村 信 英	虎の門病院 院長
	石 丸 隆 治	(財)ヒューマンサイエンス振興財団 専務理事
	松 田 鈴 夫	(株)時事通信社 解説委員
(北海道)	今 忠 正	札幌北クリニック 院長
(北海道)	狩野毛 健 男	いのけ医院 院長
(東 北)	関 野 宏	医療法人宏人会 理事長
(東 北)	岩 渕 国 人	医療法人清和会 岩手中央クリニック水沢 院長
(中 部)	鈴 木 信 夫	医療法人研信会 刈谷中央クリニック 院長
(中 部)	長谷川 辰 寿	医療法人有仁会 守山友愛病院 院長
(関 西)	飯 田 喜 俊	大阪府立病院 腎臓内科部長
(関 西)	中 橋 彌 光	社会福祉法人京都事業財団理事 西陣病院院長
(関 西)	藤 田 嘉 一	兵庫医科大学 教授
(中 国)	辰 川 自 光	医療法人辰川会 理事長
(中 国)	高 杉 敬 久	博愛病院 院長
(四 国)	寺 尾 尚 民	医療法人尚腎会 理事長
(九 州)	後 藤 宏 一 郎	後藤クリニック 院長
(九 州)	工 藤 寛 昭	工藤医院 院長
(九 州)	牧 角 仙 丞	医療法人明星会 理事長
監 事 (中 部)	大 森 伯	大森内科医院 院長
(関 東)	高 宮 治 生	栃木県厚生連 下都賀総合病院 院長
(九 州)	山 口 弾 之	医療法人至誠会 理事長